

聖愛

九月号
原町聖愛保育園

二〇〇六年九月一日発行

朝夕涼しくなり、虫の声と共に秋の気配を感じる頃となりました。心から満喫したボール遊びも終わりましたが、引き続き川にちなんだ遊びを楽しんでいます。運動会へ向けて、子どもたちの意欲を大切にしながら保育をすすめていきます。

体を動かして遊ぶ

文科省の体力診断テスト(反復横とび・垂直とびなどで合計点を出す)の結果は、始めた1964年ころに比べると数値は同じか伸びているが、運動能力テスト(50m走やハンドボール投げなど)では、近年は全体的に低下の傾向。体力はあるが運動の場面で力を出すところがうまくいかない。投げる・飛ぶなどの動き方を身に付けていないのでは、といった分析もあるようです。

福島県内の実態も同様で、児童生徒の体力の低下に歯止めがかからないとの記事が、五月二十三日付の新聞に載っていました。特に小学校6年生の男子ソフトボール投げなどの低下は深刻なようです。

昨年の保育園の運動会競技で、4・5歳男児が槍投げをしました。投げ方はボール投げや紙飛行機を飛ばす要領と同じですが、競技の練習を始めてみると、殆どの子どもが槍(新聞紙を丸めて棒状にした物)の持ち方や投げる構え、動きがぎこちなく前方の的まで届かなかったのです。両足を揃えて立ち、肩幅に開かせたが正面を向いたままで放り投げる。体を横に向かせ、介助して上体を反らせても、戻る反動を利用して投げる事が出来ませんでした。

この練習を通して改めて考えさせられたことは、出来ないことを出来るようにしようと、特定のことだけを練習させることよりも、普段から伸び伸びと全身を使って遊ばせることが、幼児期には大事であるということです。

子どもとの会話で、「お父さんゲームしてる。お母さんも」という言葉を聞くことがあります。気分転換にはぜひ、お子さんを誘って体を動かして下さい。特別な遊具や技法はいりません。一緒に追いかけてっこをしたり、お馬さんごっこをしたり、高い所から飛んだり、ぶら下がったり。ボールを投げたり蹴ったり。体を動かすと心も動いて気分転換が出来、心地良い気分になれます。親子で一緒に体を動かして楽しみましょう。

園長 遠藤美保子

9月の保育目標 主題「おもしろい」 聖愛聖句「信仰と希望と愛、この三つはいつまでも残る。その中でもっとも大いなるものは、愛である」コリント13章13節

保育目標	保育内容	保育者の配慮
0歳児 ◎保育者と一緒に手足を動かして楽しむ	・戸外遊びや散歩・砂遊び ・はう、くぐる、登る、つかむ ひっぱる、押す・歌遊び	・戸外で遊ぶ時間などに配慮し、手足を使って登る、降りるなど全身を使い、のびのびと動けるようにする。 ・興味、関心を誘い、「動きたい」「触りたい」という思いが出来るような遊具を用意し、心、体の動きを促せるようにしていく。
1歳児 ◎体をいっぱい動かして、面白さを感じる	・歩く、登る、走る、くぐる、かくれる・探検ごっこ(虫の観察など) ・遊びごっこ、しっぽ取り	・魚に変身するなど、子どもたちの思いを大切に遊びが広がるよう環境を整える。 ・一人ひとりの発達に合わせて体を動かせるよう、意識して誘い、一緒に遊び、経験できるようにする。 ・自分の思いが通らなかつたり、うまくいかなかつたりで苛立ったりは、状況やどうしたいのか気持ちをくみ取り、言葉を変えてやるなどして納得して動き出せるのを待つ。
2歳児 ◎遊びを通して、全身を使い保育者と一緒に楽しむ	・散歩(歩く、登る、自然探検) ・かけっこ・ルールのある遊び ・はさみを使って遊ぶ	・簡単なルール遊びに誘い、友だちと一緒にということが意識できるように仲立ちしながら遊びが広がるようにする。 ・一緒に見つめた喜びや思いを保育者も共有して大切に、子どもの次への興味を向く気持ちを引き出せるようにする。
3歳児 なみ ◎様々な遊び、活動を通して体を動かすことの楽しさを知る	<室内遊び> ・染色(小袋づくり)5歳児 ※1 ・敬老カードづくり5歳児 ※1 ・運動会プログラム製作 ※3 3・4・5歳児(はけで川を描く) ・競走で使う物を製作 ※3 ・石を使って魚づくり3歳児 ・鼓笛隊5歳児 ※4	・石の上でバランスを取ったり、川に見立てた場所を跳び越えるなど、子どもたちが川をイメージして取り組めるような環境をつくり、保育者も一緒に行う。 ※2 ・友だちの遊びに目を向け、「自分もやってみたい」という気持ちで見たり、真似たり試したりして、面白さを感じられるようにする。 ※2
4歳児 ほし ◎みんなで一つのことに取り組む楽しさを感じる	・競走で使う物を製作 ※3 ・石を使って魚づくり3歳児 ・鼓笛隊5歳児 ※4	・今までの川遊びやイメージした川を興味を持って取り入れられるように、保育者が言葉がけで誘い、遊んだ体験を競走につなげていく。 ※2 ・グループの活動の中で積極的に参加したいという気持ちを受け止め、準備が揃った年下児も誘い、みんなですめる楽しさが味わえるようにする。 ※3
5歳児 つき ◎共通の目的を持って、友だちと協力していろいろな活動に取り組む	<戸外遊び> ・リレーやかけっこ ・川の上を跳び越える ・石の上を歩く ・泥遊び	・一つひとつの作業に集中し、丁寧にこなせるように指導する。また、色や形の変化に気付き、工夫したり、試したりしながら面白さを見出せるように色々な素材を提供し、子どもの細かい気付きも大切に。 ※1 ・自らやってみようとする姿勢を大切に、より意欲が湧くようにする。一つのこと集中して取り組み、目的を達成した時の充実感をみんなで味わうことが出来るよう配慮する。 ※4

< 9月の予定 >

日(曜日)	園の予定	職員の予定
1(金)		運動会打ち合わせ
5(火)	避難訓練	聖書研究 めぐみの会
6(水)	子育てサークル(レインボー)	職員会議
7(木)	小人さんの音楽会 ぎょう虫卵検査	年少会議 年長会議 療育センター研修(～8)
8(金)	しゃりん梅訪問(ほし)	
12(火)	交通安全教室	聖書研究 タラントの会
13(水)	子育てサークル(プーさん)	マネージャー会議
14(木)	ポップコーン	保連役員会
15(金)	敬老カード届け	構造化会議
16(土)	中山先生自然遊び(川)	
18(月)	敬老の日(休園)	
19(火)	合同礼拝(ほし・つき)	
20(水)	子育てサークル(レインボー)	ケース会議
21(木)	小人さんの音楽会	育児支援 園内研修
23(土)	秋分の日(休園)	
25(月)	しゃりん梅訪問(つき)	
27(水)	子育てサークル(プーさん)	給食会議
28(木)	運動会総合練習①	

交通安全教室 (春に雨天のため出来なかったものです)



- ・日時 9月12日(火) 制服着用 8時30分まで登園
- ・対象児 つき・ほし組
- ・場所 原町自動車教習所

教習所の方による講話や、実際に教習所内の道路を歩く実地指導により、交通ルールを正しく知ります。子どもたちが安全方法で歩行することへの意識が高められるようにしていきます。雨天時は延期になります。(日は改めてお知らせします。)

自然遊び 川あそび 保護者会主催



- ・日時 9月16日(土) 9時30分～13時
- ・対象 全園児親子
- ・場所 いこいの河畔 現地集合
- ・講師 中山康夫 (野遊びのプロ集団 ろぜっとわーくす)

体験内容としては、川に住む虫を探してみたり、石を使ってのピンゴゲームや石を積み上げてつくる動物園など、様々な遊びを考えられています。親子で楽しめますので、ぜひご参加下さい。

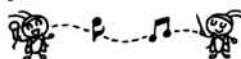
お知らせ・お願い

- ◎10月1日より衣替え・室内履き交換
<園服> 半袖→長袖
※名前の記入、サイズをご確認下さい。
※衣類も秋物へ交換して下さい。
- <室内履き> ビーチサンダルから通常のシューズに替わります。シューズはサイズを確認して、足に合った物をお願いします。

- ◎今月の午睡用タオルケット類の持ち帰り
9月8日(金)、22日(金)になります。洗濯をお願いします。

鈴虫の赤ちゃん

今年で5年目となりましたが、6月に下旬に孵化しました。そろそろ鳴き声を聴かせてくれることでしょう。



<2006年度 運動会>

- ・日時 ※2006年10月14日(土) 9:00～
- ・場所 原町第二小学校 体育館

※運動会は9月30日に予定していましたが、原町第二小学校さんの都合により、体育館が使えなくなりましたので、日にちが変更となりました。ご了承下さい。

運動会のテーマ 「川」 ～流れる・運ぶ・つながる～

- ・親子遠足 不動尊キャンプ場の木々の生い茂る自然の中、川に入り心地よさを満喫したり、川遊びを楽しみました。
- ・夏祭り 大きな石や土のうを積んで製作した手作りの川。魚釣りをしたり、水をくみ上げて流したり、遊びにも幅が広がりました。
- ・保育 川を意識した活動を取り入れ、遊んできました。ファミリークラスでは定期的に様々な川へ出かけ、いかに遊びや川探索なども楽しんでいます。

運動会では、これまでのこれらの体験を活かし、競技の中で表現します。

※運動会総合練習日 園庭(雨天時 ホール)

- ・9/28、10/2・4・12 9時から開始
- 安全のために、足に合った靴を履かせて下さい。



総合練習は、日頃の体験や経験を発揮し、運動会へ向けて一人ひとりが気持ちを高めることを目的とし、一緒に作りあげていくことを大切にします。ご家庭でも、お子さんの体調管理には留意して下さい。

いのちを聴き取る ～自然を聴く・知る・愛する～

森本二太郎先生(写真家)の講演より。

子どもは、外界への興味が深く、身の回りのものをないがしろにしないで、「これはなんだ?」と知ろうとし、関わりをもつ。その中で、これは面白い、不思議だと感じたり、反対に恐いと警戒することを知ったり、様々なことを吸収し感性を育てていく。これらは、知性・知識を成熟させる時に必要なものである。子どもの存在は、大人より限りなく自然に近い。

大人が用意した生活の中で、こうした方がいいとあらかじめ方法を提示してしまうと、本来人間が備えている「あらゆる命とつながりたい」という意識が薄れてしまう。

自然に耳を傾け、自然から発せられるものを見る。そうすることで自然の成り立ち、一緒に生かされている関係に気づく事が出来る。

子どもの遊びを見ていると常に周りのものに対して敏感で、大人が見逃してしまいそうな所にも虫などの生命を見つけ、喜んでいきます。本来備わっている「全てのものと関ろうとする」力を存分に活かし、体感していることが感じられます。

こうした感性を育てることの出来る環境を作るには、大人自身が子どもの頃に持っていた感性を思い起こす必要があると思います。

ちょっと意識をしてみるだけで変われます。身近にある自然の中で探して、触って楽しんでみましょう。



中学生が保育の現場で学びます

総合教育の一環として、実施されます。生徒たちは、職場体験を通して社会の現場や福祉に関する理解を深めるために学びます。

- ・石神中学校 9月11日～9月12日
- ・原町第二中学校 9月20日～9月21日
- ・原町第一中学校 10月11日～10月13日